

薄 根 中 学 校

所在地 〒378-0064 沼田市善桂寺町40番地
電話番号 0278-22-3180 FAX 0278-22-9860
校長名 佐藤啓文

I 学校の経営

1 学校の教育目標

(1) 基本目標

豊かな人間性、高い知性、たくましい身体を育て、自ら考え、正しく判断し実践できる生徒の育成を図る。

(2) 具体目標

- 「友愛」 自らに厳しく、思いやりのある、明るい礼儀正しい生徒
- 「英知」 自ら学び続け、知性を磨く創造性豊かな生徒
- 「健康」 自ら鍛え、心身共にたくましい生徒

2 経営方針

(1) 目指す学校像

「生徒が充実感をもてる学校」 「保護者から信頼される学校」
「地域が誇りにできる学校」 「教師のよさを発揮できる学校」

(2) 目指す生徒像(う・す・ねの心を身に付ける)

「う」美しい心……………自他を大切に、あいさつができる生徒
「す」進んで取り組む心……………自分で決めたことを実行していく生徒
「ね」ねばり強い心……………目標に向かって努力を続ける生徒

(3) 目指す教職員像…熱意、愛情、誠意のあふれる教職員

- ・各主任のリーダーシップによる組織的な役割分担を通して資質向上を目指す教職員
- ・学校課題を分析し明確化することにより、解決に向けて努力する教職員
- ・日常的に授業改善に努力すると共に、人事評価制度等を職能成長に生かす教職員
- ・校務の効率化による多忙感の軽減と風通しのよい職場を作る教職員
- ・教職員一人一人のよさを生かし、学校経営に自ら参画する教職員

3 本年度の重点施策

(1) 「豊かな人間性」を育てる指導の充実

- ①「特別の教科 道徳」における「考え・議論する」等の指導方法、指導体制を改善し、全教育活動を通して道徳的实践力を育成する。
- ②体験的な学習活動やボランティア活動等を通して、違いを認め自他を受容し、相手の立場に立って考え、互いの尊厳を認め合う心を育成する。
- ③部活動の地域移行を踏まえ、部活動の意義とねらいを理解させ、目標に向かってねばり強く取り組む実体験を重視する。

(2) 「高い知性」を育てる指導の充実

- ①ねらいを吟味し、見通しと振り返りを明確にした一単位時間における授業改善に努める。
- ②主体的・対話的で深い学びにつながるように、教科横断的に学び考える活動を通して、学ぶ楽しさや喜びを実感させる。
- ③1人1台端末を効果的に活用した学習活動や学習過程を工夫し、学習意欲の向上と深い理解とともに授業のねらいを達成する。

(3) 「たくましい身体」を育てる指導の充実

- ①健康リズム、質の高い食事や睡眠を理解させ、免疫力を高めながら、基本的な生活習慣の確立を推進する。
- ②感染症に対する正しい知識と感染防止対策を習慣化し、新型コロナウイルス感染症等の流行の防止を自ら実践できる力を育成する。
- ③学校保健委員会の機能を活用して、心の健康、食育指導の推進を図る。

(4) 生徒指導・特別支援教育の充実

- ①生徒指導委員会を核として全教職員の共通理解のもとに組織力で積極的な生徒指導を推進する。
- ②多面的・多角的な視点から生徒理解に努め、成長の過程や変化を見取り「よさを認め、励ます」指導により生徒の可能性を伸長する。

(5) 家庭、地域や幼小中の連携、進路指導やキャリア教育の充実

- ①家庭との連携により、基本的な生活習慣や学習習慣を確立する。
- ②地域との連携により、「薄中大好き、薄根大好き、沼田大好き」の特色ある教育活動を推進する。
- ③「なめらかな接続」と「適度な段差」等により、幼小中が連携した教育活動を推進する。

1 研修主題及び設定の理由

～研修主題～
主体的に学びに向かう生徒の育成
～考えを深める協働的な学びを通して～

生徒の実態との関わり

- ・本校生徒は教師の与えた課題に対して取り組むことができる。しかし、自ら考えを深めたり交流したりすることは少なく、自ら課題を設定し、主体的に学びに向かう生徒の育成は学校の課題である。
- ・意見交流の場面において、自分の考えを伝えることで満足してしまう生徒が多い。考えを深める場面では、発言力のある生徒は発言できるが、発言できない生徒もいる。また、ICTを利用した意見交流・共有は効果的であるが、生徒同士によるコミュニケーションには課題がある。

指導の在り方との関わり

- ・主体的に学習に取り組むために、生徒の学習意欲を高める学習課題の工夫や、明確な学習のゴールの設定を目指す必要がある。
- ・協働的な学びを意図的、計画的に設定し、学びが深められるよう工夫する必要がある。
- ・生徒同士がアドバイスし合ったり、教え合ったりしやすい環境をつくるために、グループ構成等を工夫する。
- ・教師の資質向上のため、異なる年齢層の教師同士の意見交換（メンター研修）や他教科間の意見交流を行い、学び合う関係づくりを目指す。

2 研修内容・方法

(1) 具体化した目指す生徒像

学習課題を自分事として捉え、他者と協働しながら、自分の考えを深め、主体的に課題解決しようとする生徒

(2) 達成するための共通実践する手立て

○考えを深める協働的な学びについて

- ・生徒が主体的に学習に取り組めるよう、生徒一人一人が自分事として探究することのできる魅力的な学習課題の設定を工夫する。
- ・協働的な学びを行う場面や時間を単元計画や指導計画に位置づけ、協働する場면을意図的、計画的に設定する。
- ・考えや話し合いを深めるための思考ツールの活用や、交流のさせ方の工夫など、教科の特質に応じた協働的な学びができるような授業を実践する。
- ・生徒が対話・交流する際に、「視点」を明確にし、他者（友達）の考えに触れながら新たな考えに気付いたり、自らの考えを再構築したりできるよう支援する。

3 研修計画・経過報告

4 これまでの研修の成果と今後の取組

○成果

- ・生徒が主体的に学習に取り組めるように魅力的な学習課題を工夫したり、協働的な学びの実践に取り組んだりすることができた。
- ・話し合いの視点を示したり、協働する人数や意図的なグループ構成などを工夫したりすることで、対話やアドバイスが活発になり、意欲的に授業に取り組む姿を見ることができた。

○課題

- ・協働的な学びを通しての「個の思考の広がりや深まり」を振り返る時間が足りなかった。
- ・生徒のワークシート、教師の板書においてもデジタル（ICT 活用）とアナログの使い分けを行い、協働的な学びが活発に行われるよう工夫する必要がある。

○課題解決に向けての今後の取組

- ・授業実践の反省を教科部会でいき、各教科における指導を一層充実させていく。

3 研修計画・経過報告

全は全体会 推は推進委員会 指は指導案検討 授は研究授業 メはメンター研修 教は教科部会

月日	研修計画 [内容]	経過報告 [○研修の視点 (上段)・明らかになったこと (下段)]
4.14	推1 今年度の研修主題・内容等について	○研修の方向性の確認 ・昨年度の研修の取組を踏まえ、今年度の研修主題や副題について検討した。また、教科の特質を生かした学習課題について検討できるよう教科部会を構成した。研修内容や方法の確認も行った。

4.21	全1 研修主題の設定、授業 計画立案、研修計画書 方向性の検討	○研修の方向性の確認 ・今年度の研修主題や副題について職員全体で決定した。また、教科 の特質を生かした教科部会を構成し、研修内容や方法の確認も行った。 ○メンター部会の構成① ・様々な年代で構成するメンター部会を立ち上げた。
5.7	全2 A 訪問に向けて 教科部会研修	○研修主任会の伝達 ・答えが一つではない問い、解決したくなるような魅力的な課題を設 定する方法や、協働的な学びを通して、他者の考えからの新たな気付 きや思考の広がりや深まりについて理解を深めることができた。
5.26	全3 NRT標準学力検査の分析 道徳教育の取り組み 意見交流②	○NRT標準学力検査の分析 ・テスト結果について考察を深め、生徒の実態把握ができた。 ○道徳教育の本年度の取組について説明 ・ICTの積極的な活用、学年の実態に合わせて重点項目を決定すること、 評価について等の確認を行った。 ○メンター部会による意見交流等② ・今年度の方向性を確認したり、若手教員の悩みを共有したりした。
6.2	指導主事訪問 A	○指導主事訪問 A ・ A 訪問を通して、教職員が個々に指導主事からの指導・助言をまと め、以後の授業改善につなげていくことを確認した。
6.30	全4 サービス規律の確保 意見交流③	○サービス規律の確保 ・サービス規律の確保に向け、教務主任を中心にサービス規律委員会①を開き、 「サービス規律の確保にかかわるチェックシート」を基に、職員間で共通 理解や啓発を図った。 ○メンター部会による意見交流等③ ・若手教員の授業改善に向けての意見交流や助言等を行った。
7.15	授 一人一授業 下飯教諭 2-1 技術	○生活に役立つ製作品を設計するために、話し合わせたことは、寸法 や形状を決定するのに有効であったか。 ・製作するタイプごとにブースを設置し、協働的な学びをする班を意 図的に構成することで、寸法や形状についてアドバイスしあうことが できる。
7.29	職員研修 「保健研修」	○保健研修 ・養護教諭を講師とし、参加した職員で AED、エピペンの使い方を実 際に行い、緊急時の対応等について全体で共通理解を図った。
9.22 9.24	全5 「考えを深める協働的な学び」 についての説明 実践紹介① 推2 指 指導案検討(1回目) 全1 授 一人一授業 栗原教諭 3-1 道徳	○「考えを深める協働的な学び」についての説明 ・①「魅力的な学習課題」。②「協働的な学び」について、職員全体で 共通理解を図った。 ○「協働的な学び」についての実践紹介① ・授業実践による検証を行い、「考えを深める協働的な学び」について 職員全体で共通理解を図った。 ○指導案検討① ・研修推進委員会と全体会において、本校の研修主題との関わりや「魅 力的な学習課題」「対話と交流」の視点で指導案検討を行った。 ○楽曲「I e m o n」の歌詞と東日本大震災の映像を組み合わせた教 材を用いて、生命(光)のバトンをつなぐ役割を考える活動は、生命 が多くの繋がりの中にあるかけがえのないものであることに気付き、 生命を尊重しようとする心情を育てることに有効であったか。 ・生徒にとっては、映像資料を提示したことにより、臨場感たっぷりに、 出来事を感じることができた。 ・「釜石の奇跡」を取り上げたことにより、自分事として考えるきっか けとして有効であった。
10.10	授 一人一授業 後藤教諭 3-2 社会	○ICTとシンキングツールを活用した資料提示とグループワークを 行うことは、日本の選挙の課題について考えを深めるために有効であ ったか。 ・話し合うときに「比較」「変化」と言った明確な視点があると、話し 合いも活発になり、資料も精選して提示することができる。 ・資料提示は ICT、ワークシートは紙、のように ICT と紙の併用バラ ンスが重要であると考えた。
10.20	全6 指 指導案検討(2回目) 「考えを深める協働的な学び」 実践紹介 メ 意見交流④	○教育水準に向けた指導案や授業改善策の検討 ・指導案に基づく授業改善策の検討と本時の学習の流れやねらいを達 成するための手立て等について検討を行った。 ○「学習課題の工夫」「協働的な学び」についての実践紹介② ・授業実践による検証を行い、職員全体で共通理解を図った。 ○メンター部会による意見交流等④ ・メンター部会において、学級経営の方法や授業改善の手立て等につ いて、ベテラン教諭や中堅教諭、若手教員で意見交流を行った。
10.23	授 一人一授業 大樽教諭 1-1 家庭科	○ワークシートと ICT を活用し、グループで献立を点検し合ったこと は、献立を改善するために有効であったか。 ・点検項目を分けていたことで、考えた献立に過不足があることに気 づくことができていた。 ・点検結果を基に、どのように改善すると良いか自主的に考え、改善 する姿勢が見られた。
11.10	全7 「考えを深める協働的な学び」	○「学習課題の工夫」「協働的な学び」についての実践紹介② ・授業実践による検証を行い、職員全体で共通理解を図った。

	実践紹介② 教育水準の確認	○教育水準の日程や内容についての最終確認を行った。
11.13	授 教育水準 授業者 佐藤教諭 2-2 国語科	<ul style="list-style-type: none"> ・授業検討会を通して校内研修の成果と課題の明確化 ○キャッチコピーを作成する学習課題は生徒が主体的に作品を読み深める上で有効であったか。 ・最初に3～4人のグループ構成で行ったことで、活発に意見交流が行われた。また、気心の知れた友達で意見交換を行ったことから、「新たな気付き」が生まれている様子がうかがえた。 ・学習課題を生徒とともに考える活動は、生徒が見通しをもって取り組むことに役立ち、目的をもって活動に取り組む様子を見取ることができた。
11.20	授 一人一授業 岩崎教諭 2-1 道徳科	<ul style="list-style-type: none"> ○道徳的価値に関係する事前アンケートをタブレットでとったり、それらを導入や展開時に提示したりすることは、生徒が自分事としてめあてに迫る上で有効であったか。 ・アンケートをとることで、クラスや自分自身の現状を把握しやすかった。 ・集団の中での自分の立場や役割を把握することで、振り返り時にそれぞれの立場で振り返ることができていた。
11.26	授 一人一授業 井上教諭 1-1 数学科	<ul style="list-style-type: none"> ○ワークシートや ICT で視点を提示したり、具体物を操作して問題に取り組んだりすることは、数学的な表現を用いた移動の方法を説明するために有効であったか。 ・1人1人が具体物を操作できるようにワークシートを用意したことで、生徒がいろいろと操作しながら考えることができた。 ・ノートの写真を提出させることで、タブレットに打ち込むよりも生徒の思考時間を確保することができた。 ・全体で発表する際にも具体物を操作してイメージできるようにすると、全員が意見を聞き入れることができたのではないかと考える。
12. 8	全8 教育水準の振り返り 「考えを深める協働的な学び」 実践紹介③	<ul style="list-style-type: none"> ・教育水準を受けて、今後の研修内容の方向性やについて、職員全体で再確認し、共通理解を図った。 ・授業実践による検証を行い、職員全体で共通理解を図った。
1.13	授 一人一授業 関上教諭 2-2 体育科	<ul style="list-style-type: none"> ○着目する視点を意図的に作り、ICTを活用した資料提示や動画撮影したものを活用したことは、試技者の困り感に対しアドバイスしたり、課題を伝えたりすることに有効であったか。 ・ICTを活用して、自分の試技を客観的に見ることができたので、課題解決に向けて話し合う姿が見られた。 ・自分の課題を見付けられない生徒もいたので、動画をもとに課題を見付けさせるとよかったのではないかと考える。
2.4	推3 今年度の成果と課題 次年度に向けて 「考えを深める協働的な学び」	<ul style="list-style-type: none"> ○今年度の成果と課題の検討 ・今年度の研修の振り返りと、次年度の研修について、研修推進委員会を開き、意見交流を通して検討と確認を行った。
2.16	全9 校内研修のまとめ 実践紹介④ メ 意見交流⑤	<ul style="list-style-type: none"> ○今年度の成果と課題の検討 ・今年度の研修の振り返りと、次年度の研修について、研修推進委員会を開き、意見交流を通して検討と確認を行った。 ○「学習課題の工夫」「協働的な学び」についての実践紹介② ・授業実践による検証を行い、職員全体で共通理解を図った。 ○メンター部会による意見交流等④ ・今年度の成果と課題等について、意見交流を行った。

※資質向上研修

月日	区分	講師	内容等
6. 30	キ、服務規律の確保	服務規律担当	服務規律の確保に向けての職員研修
随時	ク、メンター研修	メンター主任	指導技術、生徒指導、保護者対応、教材研究等について
7月 (夏季休業中に実施)	エ、保健に関する研修	養護教諭	AED、エビペンの使い方や緊急時の対応等について職員全体で共通理解を図る。

〈 職 員 一 覧 〉

職 名	氏 名	職 名	氏 名
校長	佐藤 啓文	教諭	井上 凌也
教頭	鈴木 本代	教諭	小吉 上野
教諭	山本 陽子	教諭	小吉 田
教諭	眞野 理江	教諭	正 原
教諭	野原 美穂	教諭	栗 林
教諭	藤原 新道	教諭	小武 奈
教諭	武下 英樹	養護教諭	武吉 恵
教諭	関上 英さくら	主幹事務長代理	星 野
教諭	小野 香那子	非常勤講師	小後 嘉恵
教諭	藤崎 尚樹	学校教育支援員	小後 海
教諭	岩大 充有	学校事務補助員	後 藤
教諭	藤 植 紀	スクールカウンセラー	廣 田
教諭	大後 藤太	スクールソーシャルワーカー	板 坂
教諭		用 務 員	井 正

白 沢 中 学 校

所在地 〒378-0121 沼田市白沢町高平75-1
電話番号 0278-53-2009 FAX 53-3984
校長名 阿部 かおる

I 学校の経営

1 学校の教育目標

自ら正しく判断する力を養い、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな生徒の育成を期する。

【目指す学校像】互いに認め合い、みんなの笑顔が輝く白沢中

生徒が学び合う楽しい学校 教職員が働きがいのある学校
保護者が安心して通わせたい学校 地域が応援したい学校

スローガン 「自分で考えて、自分で決めて、自分で動き出そう！」

【目指す生徒像】自分で考え、判断・決定し行動できる生徒

○自主:正しく行動できる生徒 ○勤勉:ねばり強く学ぶ生徒 ○奉仕:人のためにつくす生徒

○友愛:温かな心をもった生徒【重点】 ○健康:心身ともに鍛える生徒

【目指す教職員像】学び合い 励まし合い 高め合い 学び続ける教職員

○やる気と情熱をもち、生徒のよさを伸ばす教職員 ○常に専門性の向上を目指し学び続ける教職員

○生徒、保護者、地域を大切にし、信頼される教職員

2 経営方針

○全教職員が力を合わせて主体的・組織的に学校経営に参画する協働体制の確立 【3C 創造・協働・意思疎通】

○「勤勉:ねばり強く学ぶ生徒」を育成するための、授業を核とした探究的な学習活動の充実

○「友愛:温かな心をもった生徒」を育成するための、道徳教育の充実と心の教育の推進

○「健康:心身ともに鍛える生徒」を育成するための、運動への主体的な取組と保健教育の推進

○一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育の推進

○地域とともにある学校づくりを目指した、家庭や地域との連携・協働

3 本年度の重点施策

(1) 学校経営の充実

- ・教職員一人一人がよさを発揮して組織の協働体制を高め、温かく活力に満ちた学校経営の充実を図る。
- ・報告・連絡・相談を密にし、お互いに声を掛け合い、日常的に情報交換ができる明るく風通しのよい働きがいのある職場をつくる。
- ・「群馬県教育育成指標」を基に人事評価制度や各種研修を活用しキャリア段階に応じた職能成長を図る。

(2) 確かな学力の育成 【わくわくスクール沼田】【2025 学力向上対策】

- ・培う力を明確にした探究的な学習を実践するとともに、教科等に関する専門的な知識や技能を有し、主体的・対話的で深い学びにより、生徒が自ら学ぶ力を育む。
- ・的確な学習状況の把握と個に応じたきめ細かな指導（指導と評価の一体化）を充実させることで、生徒の学びに向かう力を高め、粘り強く学習に取り組む自律した学習者を育成する。
- ・指導のねらいを踏まえて1人1台端末等の ICT 環境を効果的に活用し、「分かる・できる・学び合う」授業づくりに努め、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図る。

(3) 豊かな人間性の育成 【児童生徒の命を守り、育てる教育】【沼田市 SNS ルール】

- ・生徒主体の活動や学校行事等、生徒が活躍する場面を設定し、自己肯定感、自己有用感を高めるとともに、自他のよさを認め合う人間関係を形成する。
- ・平和教育の推進を通して生徒の平和意識の向上を図るとともに、意欲やコミュニケーションなど数値化できない能力（ぬまたし力）を伸ばし、生徒の力を最大限引き出す教育活動を実践する。
- ・「考え・議論する」道徳の時間の質的な充実に向けて授業を工夫・改善するとともに、道徳科の授業を要として教育活動全体を通して道徳教育を推進する。
- ・人権教育と生命を尊重し力強く生き抜こうとする心を育てる指導の充実（「SOS の出し方に関する教育」）により、いじめや差別を許さない心を育てる。
- ・不登校の未然防止や不登校傾向生徒への適切な対応等、課題予防的生徒指導の徹底と関係機関との協働体制による教育相談活動を充実させる。
- ・「市 SNS ルール」や「白沢中 SNS ルール」を活用し、情報モラル教育の充実と家庭への啓発を推進する。

(4) 健やかな体の育成 【教育部活】【セイフティ沼田】

- ・心身の健康の保持増進を図るため健康教育を計画的に推進するとともに感染症対策を徹底する。
- ・保健だよりや学校保健委員会等の取組を通して家庭と連携し、よりよい生活習慣の定着や健康の増進、体力向上を図る。
- ・体力向上プランに基づき、視点を明確にした教科体育や体育的行事、部活動指導を継続的に実践することで、持久力や筋力、運動技能を高め、体力の向上を図る。
- ・「部活動地域展開推進計画」を踏まえ、教育部活の理念に基づいた部活動を行い、副顧問の配置や外部指導者の招聘などにより、安全確保や技術面の向上を図る。
- ・各種避難訓練、交通安全教室等を通して、生徒自身の危機管理意識や危険回避能力を高める。

(5) 特別支援教育の充実

- ・個別の教育支援計画や個別の指導計画に基づき、個々の教育的ニーズに応じた支援について学校全体で共通理解する。
- ・保護者との情報共有や専門家・関係機関と連携を図り、教育支援、就学指導の効果を高める。
- ・教職員の専門性を高め、すべての生徒が参加し活躍できる授業を目指し、ユニバーサルデザインと合理的配慮を意識した授業づくりに努める。

(6) 地域とともにある学校づくり 【「ぬまた未来創造学」の推進】【幼小中連携】

- ・地域とともにある学校づくりに向けて、家庭・地域との連携を強化し、コミュニティ・スクール（学校運営協議会）と地域学校協働活動を一体的に推進する。
- ・総合的な学習の時間を中心として、明確なねらいのもとに、地域の人的・物的資源を積極的に活用した地域学習や体験活動を実践し、ふるさと沼田に誇りと愛着をもち、郷土愛を育む教育を推進する。
- ・学びの連続性を意識し、隣接する保育園や小学校、近隣の中学校との異学年交流や連携を進め、教育活動を充実させる。

Ⅱ 校内研修の推進

1 研修主題及び設定の理由

～研 修 主 題～
主題 自ら学びをつくり、探究し続ける生徒の育成
副主題 ～解決したくなる課題設定と協働的な学びの場の工夫を通して～

生徒の実態との関わり

- ・与えられた課題について取り組むことはできるが、自ら課題設定し、自分事として捉えながら探究することが不十分である。
- ・昨年度までの校内研修を通して、根拠を明らかにして自分の考えをもって整理できるようになった。しかし、互いに意見を述べ合い、他者の意見を尊重しながら自分の考えを再構築することが不十分である。

指導の在り方との関わり

- ・興味関心を高めようとするだけでなく、生徒にとって自分事として考えることができる学習課題の設定が必要である。
- ・対話と交流をする中で、他者の考えを取り入れたり、自分の考えを見つめ直したりする活動を通して、思考を深めさせる工夫が必要である。

2 研修内容・方法

(1) 具体化した目指す子ども像

自ら学習課題を設定し、課題解決に向けて他者と協働的に学ぶ中で自己決定する生徒。

(2) 共通実践する手立て

- ・前時とのつながりや既習事項、体験活動などから生徒自らが解決したくなる魅力的な学習課題を設定する。
- ・話し合う内容を焦点化したり、教師がねらいに沿った発問や問い返しをしたりして「対話」と「交流」の場を工夫し、他者の考えを取り入れたり、自分の考えを見つめ直したりして思考が深まる活動を行う。

3 研修計画・経過報告 <裏面>

4 これまでの研修の成果と今後の取組

○成果

- ・身近な人や物に関連させた課題を設定したり、ねらいに沿った方向付けを行ったりしたことで、生徒が自分事として捉えながら単元の課題解決に向けて学習を進めることができた。
- ・協働的な学びの場において、ペア、小グループなどの学習形態の工夫や教師がファシリテーターとなって生徒の思考を促すことで、全ての生徒が話し合いに参加し、自分の考えを伝えたり、一緒に考えたりしながら自己決定する様子が見られた。
- ・話し合いの際に視点をもたせたことで、課題に沿って主体的に意見交流し、めあての達成に向かう姿が見られた。

○課題

- ・解決したくなる課題を設定する際に、前時とのつながりや既習事項などと関連させて、生徒に考えさせたり、生徒の言葉を使ったりして課題を設定する必要がある。また生徒のゴールの姿を意識した課題づくりが必要である。
- ・協働的な学びを通して、生徒がさらに考えを広げたり深めたりできる、ねらいに迫るための手立てを工夫していく必要がある。


○課題解決に向けての今後の取組

- ・市教委が提言する「魅力的な課題設定」を参考に、解決したくなる課題を設定できるように、日々の教材研究を行うとともに、生徒の実態を把握していく。また生徒のゴールの姿を意識した課題づくりが必要である。
- ・振り返りの場面において、「何を、どのように学び、何ができるようになったのか」など振り返りの視点を示すことによって、生徒が自身の学びの過程や変容を感じられるようにするとともに、教師自身の指導に生かせるようにする。

3 研修計画・経過報告

指 指導案検討 授 研究授業・授業研究会

月日	研修計画[内容]	経過報告[○研修の視点・明らかになったこと]
4.14	【校内研修推進委員会①】 ・研修の概要の検討	○校内研修の概要と見通しについての検討 ・研修のテーマと方向性を確認することができた。
4.21	【第1回校内研修(全体会)】 ・研修の概要(主題・副主題) ・目指す生徒像について	○校内研修の概要と見通しについての検討 ・自ら課題を設定し、自分事として捉えること、他者の考えを取り入れながら自分の考えを再構築すること。
5.19	【第2回校内研修(全体会)】 ・計画立案、研究事項の検討 ・授業実践、目指す生徒像について	○主題設定の理由、ねらい、内容、方法、計画の再確認 ・目指す子ども像について共通理解を図るとともに、共通する実践の手立てを見いだすことができた。
6.9	【第3回校内研修(全体会)】 ・1人1授業の実践計画	○研修内容の再確認、修正、共通理解 ・1人1授業の方法、視点、研究会の進め方の確認を行った。
6.23	指導主事訪問 A	○指導を受けるとともに、個々の目標を明確にする。 ・個々の課題や目標を明確にすることができた。
7.14	【第4回校内研修(全体会)】 1人1授業全体共有 授 春日 大 教諭(3年 社会) 「現代社会を捉える枠組み」	○身近な設定や本時の決まりを考えさせたことによる「解決したくなる課題と協働的な学びの場の工夫」 ・体育館の使用の仕方という身近な課題であったため、子どもが興味関心をもって取り組むことができた。 ・同じ設定をもとに、話し合う視点をもたせたことが、考えを深めるのに有効であった。
	授 宮田 淳子 教諭(1年 国語) 「空中ブランコ乗りのキキ」	○場面ごとタイトル付けを小グループで行うことによる「解決したくなる課題と協働的な学びの場の工夫」 ・場面ごとのタイトルを考える課題にしたことで、全員が自分の考えをもつことができた。 ・小グループで発表させることで、全員が話し合いに参加し、根拠をもって意見を述べることができた。
	・指導主事訪問 A を受けての反省	・全体会の中で出た情報を再確認した。
8.27	【校内研修推進委員会②】 指 指導主事訪問 B に関わる指導案検討	○B 訪問に向けての共通理解及び指導案検討 ・授業のねらいや単元構想など校内研修の関わりの中で考えた。
9.8	【第5回校内研修(全体会)】 1人1授業全体共有 授 石井 華恵 教諭(1年 英語) 「Program4 Let's Enjoy Japanese food. Program5 Pajama Day」	○多那中生への本校の紹介について、文法の使い方や動画の内容についての話し合いによる「解決したくなる課題と協働的な学びの場の工夫」 ・単元のゴールを明確にし、学習の見通しをもたせることで、話し合う際に見通しをもちながら学習が進められ、協働的な学びが生まれた。 ・ペアで英文の使い方について話し合わせたことで、助け合ったり、教え合ったりして個々の力を発揮することができた。
	授 鈴木 結依 教諭(3年 数学) 「二次方程式」	○ねらいに迫る問題設定とワークシートを用いた話し合いによる「解決したくなる課題と協働的な学びの場の工夫」 ・実態に応じて問いの内容を精選することで、生徒の考えを引き出し、自ら解決したくなる課題設定につながる。 ・解き方のよさを話し合う姿と解き方を教えている姿があった。話し合う視点をしっかりもたせ、課題解決することで、グループごとの話し合いの内容が深まり、協働的な学びにつながる。
	指 指導主事訪問 B に関わる指導案検討	○B 訪問に向けての共通理解を図る。 ・共通実践する手立てを中心に指導案の内容を検討し、単元の課題を見直すことができた。
9.17	【校内研修推進委員会③】 指 指導主事訪問 B に関わる指導案検討	○研修の副主題を中心とした指導案検討 ・協働的な学びを通して、単元の課題を達成できるような単元構想について話し合った。
9.29	【第6回校内研修(全体会)】 指 指導主事訪問 B に関わる指導案検討	○B 訪問に向けての共通理解を図る。 ・指導案の内容を検討し、協働的な学びの場の工夫を見直すことができた。

10.6	【第7回校内研修（全体会）】 指 指導主事訪問 B に関わる指導案 検討	○B 訪問に向けての共通理解を図る。 ・指導案の内容を検討し、授業の視点、本時のねらい、展開を見直すことができた。
10.17	授 指導主事訪問 B 清水健一郎教諭（3年 体育） 「シンクロマット」 	○グループ別学習で解決方法を話し合っただけで決めたことによる「解決したくなる課題と協働的な学びの場の工夫」 ・課題設定を生徒のやりとりの中から設定することができた。 ・めあてと視点を基にして話し合いや試技を繰り返し、試行錯誤しながら課題解決に向けて考えを深めることができた。 ・シンクロマットにより集団としての課題は解決できたが、個に戻す時間を確保し、個人の技能の高まりを実感できるようにする必要がある。
11.10	【第8回校内研修（全体会）】 1人1授業全体共有 授 阿部澄子 教諭（3年 家庭） 「幼児の生活と家族」 授 齋藤広大 教諭（3年 理科） 「エネルギーと仕事」	○アンケート結果の提示、ロールプレイを行ったことによる「解決したくなる課題と協働的な学びの場の工夫」 ・アンケート結果や具体的な場面の提示により、子どもたちが自分事として考えながら課題に取り組むことができた。 ・ロールプレイを行った動画を見返しながら話し合ったことで、考えを共有し幼児へのよりよい関わり方につながった。 ○身近な事例の提示、試行錯誤しながらの立案による「解決したくなる課題と協働的な学びの場の工夫」 ・身近な事例からエネルギーに着目させたことで、生徒が「なぜ？どうして？」という思いをもって解決したくなる課題へとつながった。 ・ポイントを示し、道具を使いながら立案させたことで、課題解決に向けての考えを表現することができた。
12.1	【第9回校内研修（全体会）】 1人1授業全体共有 授 堀江則子 教諭（2年 音楽） 「曲想豊かなアンサンブルを工夫しよう」 授 南雲優人 教諭（2年 美術） 「本当に伝えたかったことは何か」	○演奏する目標を立てさせたことによる「解決したくなる課題と協働的な学びの場の工夫」 ・曲想を決める諸要素を確認したことで、本時のめあてや解決方法など見通しをもって取り組むことができた。 ・話し合いや課題解決のためには基礎的な知識・技能が必要である。 ○美術館の先生や生成 AI とのやりとりによる「解決したくなる課題と協働的な学びの場の工夫」 ・場の設定、グループ分けなどの環境構成を工夫したことにより、対話と交流が活発になり、生徒の考えが広がった。 ・生成 AI や教師のファシリテーションにより鑑賞の視点が広がり、考えの変容や深まりが見られた。
1.19	【第10回校内研修（全体会）】 ・来年度のテーマの方向性の検討	・授業実践をまとめる ・成果と課題から次年度の研修について検討。
2.16	【第11回校内研修（全体会）】 ・来年度のテーマの方向性付け	・次年度の研修の研修主題、内容について検討。

資質向上研修

月日	区分	講師	内容
4.28	特別支援に関する研修	SSW 相原英子	SSW の役割と子どもへの関わり方について
6.9	特別支援に関する研修	高校通級担当 富所里美	中学校における巡回通級との連携・高校通級について
年3回	メンター研修	メンター教員	生徒指導・保護者対応等について
9.29	学力向上に関する研修	星野指導主事	学力向上に向けた授業の考え方・つくり方
11.10	学校安全に関する研修	林博幸スクールサポーター	学校侵入者に対する対応について
12.1	学校保健に関する研修	養護教諭	アレルギー対応とエビペンの使い方について

< 職員一覧 >

職名	氏名	職名	氏名	職名	氏名
校長	阿部 かつお	教諭	木下 結依	技術科指導員	瀧澤 志保
教頭	根田 光典	教諭	鈴下 洋一	事務員	小池 裕吉
教諭	大春日 大恵	教諭	堀江 則子	教育支援員	大瀨 たつ江
教諭	石井 華大	教諭	宮田 淳	心の教室相談員	大竹 士郎
教諭	南雲 優人	教諭	阿部 藤子	スクールカウンセラー	大田 莉奈
教諭	齋藤 広一	養護教諭	佐藤 優子	スクールソーシャルワーカー	廣原 英周
教諭	清水 健一郎	事務主事	藤 佑香	部活動指導員	梅 澤 平

利根中学校

所在地 〒378-0303 沼田市利根町追貝334番地
電話番号 0278-56-2044 FAX 56-4209
校長名 岡村 健一

I 学校の経営

1 学校の教育目標

(1) 学校教育目標

- 〔基本目標〕 高い知性と豊かな心を持ち、心身ともに健康で、強く逞しく生きる生徒を育成する。
スローガン：自分と他者を尊重し、自ら考え行動する ～ 明るく、元気に、前向きに ～
〔具体目標〕 ○向学（知）：学ぶ意欲と向上心をもつ生徒
○克己（体）：心身ともにたくましい生徒
○優雅（徳）：自他のよさを認め合える生徒

(2) 経営目標

- 〔目指す学校像〕 ○楽しさと潤いに満ちた、活力ある学校
・楽しく学び合える学校【生徒】
・働きがいのある学校【教職員】
・安心して通わせたい学校【保護者】
・応援したい学校【地域】
〔目指す教職員像〕 ○学び続ける教職員
○教育的愛情をもち、生徒に寄り添う教職員
○誠実かつ迅速に行動し、信頼される教職員

2 経営方針

- ①教職員の学校経営への参画意識の高揚と組織的な企画・運営の推進（創造・協働・意思疎通）
- ②「学ぶ意欲と向上心をもつ生徒」を育むための、授業の改善と充実
- ③「心身ともにたくましい生徒」を育むための、健康（体力・保健・食育・安全）の増進
- ④「自他のよさを認め支え合う生徒」を育むための、人権教育と道徳教育の推進
- ⑤安全で安心な学びの場づくりと主体的に命を守る安全教育の推進
- ⑥地域とともにある学校づくり（小中連携、中高一貫教育、キャリア教育、へき地教育等）の推進

3 本年度の重点施策

- ①教職員の学校経営への参画意識の高揚と組織的な企画・運営の推進
・教職員の使命を自覚した服務規律の確保とともに、同僚性を高めた組織力と専門性の向上
【沼田市教志塾「言向和平」】
・業務の効率化や労働時間の適正化に努め、働きがいのある職場環境づくりを推進
- ②「学ぶ意欲と向上心をもつ生徒」を育むための、授業の改善と充実
・学ぶ必要性を感じるような魅力ある課題づくりや単元構想を工夫する。
・確かな学力の定着を目指した活動のねらいの明確化と、主体的・対話的で深い学びの促進
・生徒の実態を踏まえた指導方法や指導体制の工夫・改善と家庭学習の充実
- ③「心身ともにたくましい生徒」を育むための、健康の増進
・楽しさを体験できる教科体育の工夫・改善と、家庭や地域との連携による適切な部活動の推進
【教育部活】
・食に関する正しい知識や習慣を身に付けられるよう、組織的な食育に関する指導の実施
- ④「自他のよさを認め支え合う生徒」を育むための、人権教育と道徳教育の推進
・利他共生の精神を基盤にした、温かく思いやりのある学級・学校づくりと個に応じた多様な居場所づくりの推進
・交流活動を通じてコミュニケーション能力を育成しながら相互理解に努め、教育活動全体を通じた優しさや思いやりにあふれた豊かな心の育成
・生徒一人ひとりの個性の発見とよさや可能性を伸長し、社会的資質・能力の発達を支える生徒指導による自己指導能力を育成しながら、自己決定を促す生徒指導を取り入れることによって思考の言語化を図り、事案解決の成功体験を基にした自己肯定感を育成
・生徒の主体性をいかす生徒会活動と学級活動による自律性の育成
- ⑤安全で安心な学びの場づくりと主体的に命を守る安全教育の推進
・教職員の危機管理意識の維持高揚と危機管理に応じた家庭・地域・関係機関等との連携
【セイフティ沼田】
・避難訓練や交通安全教室を通じて、主体的に安全を確保するための判断力や実践力の育成
- ⑥地域とともにある学校づくりの推進
・学校運営協議会との連携、学校情報の積極的な発信と地域教育資源の活用、生徒の地域貢献活動の実践、地域の実情に応じた役割分担と連携・協働の推進
・探究的な学習（総合的な学習の時間・特別活動等）の実践による、郷土愛、自己有用感の育成
【ぬまた未来創造学】

II 校内研修の推進

1 研修主題及び設定の理由

～研修主題～
自律した学習者の育成
～魅力ある課題設定と学びを深める意見交流を通して～

生徒の実態との関わり

- ・意見交流に必要な知識が定着していない生徒や、自ら課題を解決したいと思えず受け身になってしまう生徒もいる。
- ・ペアなどの少人数での意見交流はできるが、より多くの人を巻き込んだパス回し型の意見交流までには至っていない。

指導の在り方や研修との関わり

- ・必要感のある課題を設定し、生徒が学び方を自ら判断し、対話の中で試行錯誤を繰り返せるよう学びの場を工夫する必要がある。
- ・生徒が「もっと色々な意見を聞きたい」と思うような問いや課題を設定し、生徒同士で深まりのある意見交流になるよう支援する必要がある。

2 研修内容・方法

(1) 具体化した目指す生徒像

- ①課題意識をもつことができる生徒
- ②学び方を自ら判断し、選択できる生徒
- ③試行錯誤しながらめあての達成に向かう生徒
- ④意見交流を通して、見方を広げたり、学びを深めたりできる生徒
- ⑤学びを振り返り、次の学びに繋げることができる生徒
- ⑥確かな学力の定着を目指す生徒

(2) 具体化した目指す生徒像を達成するための共通実践する手立て

- ①学ぶ必要性を感じるような魅力ある問いや課題を設定する。
- ②自己決定、試行錯誤、対話・交流の場面を取り入れ、学びの場を工夫する。
- ③自分の考えを深めたり、広げたりして、生徒同士で深まりのある意見交流になるよう支援する。
- ④学びが実感でき、次に繋がる振り返りや活用の時間を確保する。

3 研修計画・経過報告 〈裏面〉

4 これまでの研修の成果と今後の取組

○成果

- ・魅力的な課題設定により生徒の学ぶ必要感が高まり、自分事として意欲的に課題解決に挑む姿が見られた。
- ・各教科における実践共有や授業分析を通じ、教員間で互いの実践に学び、高め合うことができた。

○課題

- ・生徒が学び方を自ら選び試行錯誤しながら問題を解決できるよう、生徒に委ねる時間の精選や場の設定が必要である。
- ・対話・交流の場面で、生徒の思いや考えを課題に結びつけたり、生徒同士で考えを深められたりできるような教師による支援の工夫が必要である。

○今後の取組

- ・生徒が新たな学習課題を発見したり、次回以降の学習計画を立てたりできるよう振り返りの活動を充実させる。
- ・各教科において、生徒が学びの深まりを具体的に把握した上で学習を進められるようにし、自発的な意見交流のためのスキルやルールを提示していく。

3 研修計画・経過報告

月日	研修計画 [内容]	経過報告 [○研修の視点 ・明らかになったこと]
4.7	研修主題の提案・検討 研修計画と内容の確認	○本年度の校内研修の方向性について確認する。 ・前年度の成果と課題を共有し、今年度の研修主題・副題について共通理解を図った。
通年	授 教員同士の学び合い	○授業、短学活、集会等の様子を参観し合い、自身の実践に生かす。
4.21	共通実践する手立ての検討	○共通実践する手立てについて協議する。 ・魅力的な課題を設定すること、生徒同士で意見交流が深まるような支援を工夫することの2つに重点を置くことを確認した。
5.15	授 指導主事訪問A 授業実践、授業研究会	・課題設定においては、生徒が解決しなくなったり自分事化ができたりするようつかむ過程を充実させること。 ・意見交流を手段として、生徒の学びが深まるよう具体的にどんな支援をしていくかを研修していくこと。
5.21	【研修推進委員会①】	○今後の校内研修の見通しをもつ。
6.16	NRT の結果を踏まえた生徒の実態分析	○各教科における生徒の実態と課題、指導の手立ての共有を行う。 ・基礎知識の定着が低く積極性が足りないなどの課題がある。 ・教科の特性に応じた工夫をし、折に触れて各教科の実践を報告していく。
7.2	【研修推進委員会②】	○一人1 授業や教育水準での研究会の流れを確認する。 ・授業参観と研究会での観点、流れを確認した。
7.7	授 1年理科 清水 教諭 「身のまわりの物質とその性質」	○生徒に身近な発砲入浴剤を使って発生する気体の正体を調べることは気体の正体を判断するのに有効であったか。 ・既習事項を確認しすぎると試行錯誤が生まれにくい、生徒にまかせる時間の確保が必要である。
9.1	教育水準指導案検討会 I 指 1年社会 佐鳥 教諭 「ヨーロッパ州」	○本時のねらいと展開が研修の観点に沿った授業になっているか。 ・学習形態を一斉・ペア・個人のどれで行うのが曖昧になっているため、活動ごとにどの形態が有効なのか共通理解することが必要である。
9.22	授 2年国語 寒梅 教諭 「敬語の意味と種類」	○グループごとに敬語の性質をまとめ、全体に発表する活動は敬語の性質を理解するのに有効であったか。 ・職場体験という身近な話題で課題意識をもつことができた。まとめまで一貫した課題でいくと生徒の理解も深まるのではないかと。
10.15	【研修推進委員会③】	○教育水準に向け、指導案に基づいた授業改善策の検討を行う。 ・生徒が取り組む活動を1つにしぼることで、本時のめあてを明確にすることができた。
10.20	教育水準指導案検討会 II 指 1年社会 佐鳥 教諭 「ヨーロッパ州」	○魅力ある課題が設定できているか。意見交流時の支援は適切か。 ・本時の課題を生徒の言葉で引き出すようにする。 ・意見交流では、自由度を高めつつ、生徒が比較や関連付けができる声かけを行う。
11.13	授 教育水準向上研究授業研究会（指導主事訪問B） 1年社会 佐鳥 教諭 「ヨーロッパ州」	○魅力ある課題設定と深まりのある意見交流ができていたか。 ・生徒の言葉からめあてを設定し、生徒は課題を自分事化することができていた一方で、単元の課題と外れためあてになってしまったため教師の軌道修正も必要である。 ・教師の机間巡視や停滞しているときの全体への声かけにより、生徒はお互いに考えを深める対話ができていた。 ・グループ活動では、意見の共有だけで終わらない工夫が必要である。

12.14	授 2年音楽 中嶋 教諭 「構成を工夫してリズムアン サンプルをつくろう」	○リズムアンサンプルをつくる活動は、音の出し方や音の重なり方を理 解するのに有効であったか。 ・導入では教師が話しすぎるのではなく、生徒が実践することを通して知識 を習得し、その知識をもとにグループ活動に入れるようにする必要がある。
1.19	今年度の研修のまとめ	○今年度の校内研修の成果と課題、今後の取組について検討を行う。 ・自発的な意見交流のためのスキルやルールを提示する必要がある。
2.16	授 1年英語 小林 教諭 「A Trip to Finland」	○今年度の校内研修の成果と課題を踏まえた授業の提案と検討を行う。
3.16	次年度の研修に向けて	○次年度の研修の方向性について検討する。

※資質向上研修

月日	研修計画 [内容]			実施内容
	区分	講師 (担当)		
4.7	ア	授業改善に関する研修	学力向上 Co	・授業開き「新しい教科・先生とどう出会うか」
4.21	オ	学校保健に関する研修	養護教諭	・エピペンの使い方の確認及び演習
	ア	授業改善に関する研修	学力向上 Co	・入門期に身につけさせたい授業の受け方
5.14	ア	授業改善に関する研修	学力向上 Co	・実力テストの生かし方について
5.19	ア	授業改善に関する研修	学力向上 Co	・期末試験の準備と指導について
6.16	キ	服務に関する研修	3年職員	・児童生徒への不適切な行為について
	ア	授業改善に関する研修	学力向上 Co	・テスト返しの1時間を語ろう
	オ	学校安全に関する研修	安全主任	・非常用電話の使い方について
7.7	ア	授業改善に関する研修	学力向上 Co	・1学期の内容定着と夏休みの学習に向けて
9.1	ア	授業改善に関する研修	学力向上 Co	・修行の場をどこに求めるかを語ろう
9.22	イ	保護者対応に関する研修	研修主任	・保護者対応について
	キ	服務に関する研修	2年職員	・安全配慮義務について
10.20	ア	授業改善に関する研修	学力向上 Co	・学力向上のために取り組んでいることを語ろう
12.14	ア	授業改善に関する研修	学力向上 Co	・自律した学習者とは
1.19	キ	服務に関する研修	1年職員	・交通事故の防止について
2.16	ア	授業改善に関する研修	学力向上 Co	・受験期の授業をどう充実させるか

〈 職 員 一 覧 〉

職 名	氏 名	職 名	氏 名
校長	岡村 健一	教諭	古田島 茂
教頭	町田 友香	養護教諭	阿部 香織
教諭	井上 幸大	事務主任	保坂 洋介
〃	佐鳥 悠平	栄養士	林 清子
〃	寒梅 良亮	非常勤講師	大岩 哲夫
〃	清水 季実華	スクールカウンセラー	清田 和泉
〃	小林 夏音	スクールソーシャルワーカー	星野 ふき子
〃	荒井 珠里	主任用務員	中澤 玲子
〃	中嶋 美季		

多 那 中 学 校

所在地 〒378-0317 沼田市利根町多那732番地
電話番号 0278-53-2698 FAX 53-3199
校長名 井口 智恵子

I 学校の経営

1 学校の教育目標

【基本目標】◎多那を愛し、未来をきりひらく子

【具体目標】○学び続ける生徒(知) ○思いやりのある生徒(徳) ○たくましい生徒(体)

2 経営方針

- (1) 教育理念 全教職員が挑戦し、問題の解決に当たる
- (2) 目指す学校像 ともに学び、考え、助け合い、高め合う多那(自慢の学校)
- (3) 目指す教師像 互いに支え、高め認め合える人間性豊かな教師(学び続ける・可能性を伸ばす)

3 本年度の重点施策

- (1) 確かな学力の育成
 - ① 「できた・分かった・わくわくする」授業の実践(90%以上)
 - ② 繰り返し学習による基礎的な知識・技能の定着
 - ③ 問題解決型学習・探究的学習における対話と交流を重視した授業 【わくわくスクール沼田】
 - ④ 自己選択・決定を重視した家庭学習の充実
 - ⑤ 教員の得意や専門性を生かした、小中相互の乗り入れ型教科指導
- (2) 豊かな人間性の育成
 - ① 生徒指導の4つの視点を基盤にした積極的な生徒指導の推進 【児童生徒の命を守り、育てる教育】
 - ② 道徳教育、人権教育の推進
 - ③ SOSの出し方・議論する道徳の時間等による自他の命を大切にする指導
 - ④ 凡事徹底、師弟同行、率先垂範による生活指導
 - ⑤ 家庭と連携した読書活動の推進 【家族で本を読みましょう】
 - ⑥ 外部機関等との連携(CS・SSWの充実)
- (3) 健康の増進と体力の向上
 - ① 学校保健の推進
 - ② 食育の推進(早寝・早起き・朝ごはん)
 - ③ 運動好きな児童生徒の育成
 - ④ 体力向上プランをもとにした組織的・計画的な体力向上
 - ⑤ 部活動の充実 【教育部活】
- (4) 組織マネジメントの充実
 - ① 児童生徒・地域の実態を踏まえた特色ある教育課程の編成・実施・評価
 - ② 「確認・連絡・報告・相談+記録」の徹底と全職参画のPDCAサイクルによる学校評価の充実
 - ③ 小中連携一貫教育の促進と充実

II 校内研修の推進

1 研修主題及び設定の理由

～研修主題～

主題 「主体的・探究的に学び、考え判断したことを表現できる児童生徒の育成」

副主題 ～生活科・総合的な学習の時間等における体験的活動の工夫を通して～

子どもの実態との関わり

- ・自分が興味をもったことに対しては、進んで学習活動に取り組むことができるが、探究課題においては、自分事として捉えきれない児童生徒が多い。
- ・体験的活動には積極的に取り組んでいるが、活動で得た情報をその後の学習につなげたり、生かしたりすることが苦手である。
- ・課題に対して自分の思いをもつことができたり、他者の考えを聞いたりすることはできるが、それらを言語化して人に伝えることに難しさを感じている。

指導の在り方や研修との関わり

- ・児童生徒が課題を自分事として捉えるために、必要感のある課題を設定したり、体験的活動を工夫したりして、自ら問題意識や活動のめあてをもって取り組めるようにする。
- ・体験的活動が目的化しないために、ねらいを明確にし、そのために効果的な体験的活動の工夫をする。また、それに関わる言語活動を充実させる。
- ・児童生徒が相手意識をもって表現し、課題を解決したり、思考の深まりを生み出したりするために、学習の過程において、協働的に課題解決に向かう場面や意見交流の機会などを設ける。

2 研修内容・方法

(1) 具体化した目指す子ども像

【低学年】身近な体験的活動を通して、気づきや自分の思いを表現できる児童。

【中学年】体験的活動を通して学んだことから、自分の思いや考えを表現できる児童。

【高学年】体験的活動を通して学び考えたことから、相手意識をもって思いや考えを表現できる児童。

【中学生】課題意識をもち自分で考え決定し、体験的活動を通して、相手意識をもち思いや考えを表現できる生徒。

(2) 共通実践する手立て

- ・生活科・総合的な学習の時間等において、児童生徒が主体的・探究的に学ぶことができるような課題設定の工夫を取り入れることはもちろん、体験的活動の工夫とそれに関わる言語活動の充実を図る。
- ・体験的活動は、ねらいを明確にして実践する。
- ・体験的活動として、地域の人、もの、ことと積極的につながり、地域の特徴やよさに気づき地域への親しみや愛着を醸成するとともに、課題解決に必要な知識及び技能を身に付けさせ、社会で働く資質・能力の育成を目指す。
- ・体験的活動を通じて、児童生徒に身に付けさせたい力の育成に迫ることができているか、効果的であったかを児童・生徒の発言やアンケート、写真などで見取り、授業改善を図る。

3 研修計画・経過報告 <裏面>

4 これまでの研修の成果と今後の取組

○成果

- ・地域の願いや困り感、子どもの興味関心等をもとに課題を設定したことで、児童生徒が課題を自分事と捉え、主体的に取り組むことができた。
- ・ねらいを明確にした体験的活動を取り入れることで、課題を自分事として捉えられるようになった。
- ・体験活動を通して得た知識や思考の深まりを課題解決に生かすことができた。

○課題

- ・体験的活動を通して得た気づきや自分の思いを表現する力が乏しい。
- ・児童生徒の聞く力が身に付いていない。
- ・地域の人的資源や物的資源を活用することのよさに対する教師の理解が浅い。またそれらの豊かな資源を授業等で活用し切れていない。

○課題解決に向けての今後の取組

- ・児童生徒が主体的・探究的に学ぶ仕掛けや、教師の効果的なファシリテートの仕方を考える。

3 研修計画・経過報告 (全: 全体会 指: 指導案検討 授: 研究授業・授業研究会)

月日	研修計画 [内容]	経過報告 [○研修の視点・明らかになったこと]
4.14	全① ・研修内容について	○本年度の研修主題、副主題について
4.28	全② ・A訪問指導案形式について ・校内研修指導案形式について	○指導主事訪問Aについて
6.2	全③ ・授業実践計画と年計の共有 ・A訪問授業実践指導案検討	○指導案検討
6.13	全多那小中指導主事訪問A	○公開授業
6.23	全④ ・A訪問の振り返り ・授業研究会の報告 ・研修の進め方の確認	○A訪問の成果と課題の情報共有
7.11	授・授業実践・授業研究会 ・中3総合 千明春香教諭 「最高の感謝を地域へ伝えよう ～僕たちの多那校プロジェクト～」 探究課題：未来を創る	○プレゼン発表による体験活動 ・よりよい運動会にするために、情報収集の場面で、先生方に助言をもらう活動を取り入れたことで、地域の人も楽しいと感じる種目や競技内容について、相手意識や目的意識をもって見直すことにつながっていた。
8.27	全⑤ ・学力向上フォーラムをふまえて	○学力向上フォーラムの情報共有
9.22	全⑥ ・魅力的な課題設定の仕方について 講師：荒木指導主事	○魅力的な課題設定について ・魅力的な課題設定の仕方について、情報共有や話し合い、指導主事の助言をもとに理解を深めた。
9.29	全⑦ ・B訪問に向けた指導案検討	○授業実践の成果と課題の情報共有 ○指導案検討
10.6	授・授業実践・授業研究会 ・小2生活科 井上駿教諭 「おもちゃランドをつくらう！」	○試し遊びによる体験活動 ・前時に試し遊びをして、本時に気付いたことをアドバイスし合う活動を取り入れたことは、おもちゃを改善しようという次時以降の学習の必要感をもたせるのに有効であった。
10.14	授・授業実践・授業研究会 ・中2総合 下田隆広教諭 「多那の魅力 未来へ繋げ ～感謝の思いを地域に還元しよう～」 探究課題：多那を創る	○実物にふれる体験活動 ・自分たちの願いを実現するために、情報収集の場面で実物にふれる体験活動を取り入れたことで、課題解決に必要な情報を得たり、専門的な視点をふまえながら整理したりすることができていた。
10.15	授・授業実践・授業研究会 ・小1国語 新井久仁美教諭 「くわしくかこう」	○お互いの考えを伝え合う活動 ・本時において、児童らでアドバイスをし合う活動を取り入れたことは、次時以降の書くことに必要な情報を集めたり、気付いたりするのに有効であった。
10.22	授・授業実践・授業研究会 ・中1総合 坂本望教諭 「福祉の学習を通して地域のためにできることを考える」 探究課題：多那を知る	○単元の導入に取り入れた福祉体験活動 ・単元の導入場面で福祉体験をしたことで、生徒に目的意識をもたせることにつながった。実際に体験したことで地域の方の思いに気付くことができていた。
10.29	授・授業実践・授業研究会 ・小1算数 小林昌行教諭 「かたちあそび」	○実物にふれながら考える体験活動 ・本時のような課題設定の場面で、かたちあそびをする体験活動を取り入れ、立体を動かしたり重ねたりしたことは、児童の「どうして」を引き出したり、形の特徴に気付いたりするのに効果的であった。

11.5	授・授業実践・授業研究会 ・小5・6総合 萩原圭教諭 「多那を守ろうプロジェクト～農業 で多那の未来を明るくしよう～」 探究課題：多那を愛する	○プレゼン発表による体験活動 ・本時の前に保護者との意見交換を取り入れたことで、 本時の導入における資料提示に生かすことができ、 児童が考える際のヒントになっていた。
11.10	全⑧・B訪問（水準）に向けて	○指導案検討 ○資料の効果的な提示について
11.11	授・授業実践 ・中2道徳 山田哲也教諭 「自分のよさを伸ばして」	○職場体験活動の学びを生かした教科横断的授業 ・10月に行った職場体験学習と本時をつなぎ合わせ たことで、生徒はめあてをより自分事として捉えて 考えることができていた。
11.21	指導主事訪問B（沼田市教育水準） 全・小3・4総合 渡貫文子教諭 「森の博士になろう」	○実地体験と地域人材を活用しながら学校林の未来を 考える活動 ・児童の学習に必要な人材や物的資源等を、教師側が意 図的に取り入れたことが、児童の探究的な学びのスパ イラルにつながった。
12.8	全⑨・B訪問の振り返り	○B訪問のグループ協議の振り返り ・教師が事前に「対話・交流」の目的を明確にして、児童 生徒と外部の方をつなぎ、考えを深めさせるためのフ ァシリテートが大切。
1.19	全⑩・実践の振り返り・まとめ ・授業研究会の報告	○体験的活動の工夫における成果と課題の共有 ・体験的活動を意図的に取り入れたことで、児童生徒の 主体的な学びにつながった。
2.10	授・授業実践 ・中1国語 鈴木朋華教諭 「物語を振り返って別の視点から 見つめる」	○意見交流を通して、行動や心情をもとに視点を変えな がら登場人物の人物像についてとらえる活動
2.16	全⑪・今年度の振り返り	○今年度のまとめ ・教師の新たな学びについて

5 資質向上研修

月日	研修計画 [内容]		実施内容
	区分	講師	
5.16	保健に関する研修	養護教諭	心肺蘇生法講習会・アレルギー対応の仕方
5.19	学校侵入者対応訓練	スクールサポーター	学校侵入者対応訓練全体研修
毎月	服務規律に関する研修	服務規律担当	服務規律について
9.8	職員研修	県教育委員会	全国学テを活用した授業改善説明会の視聴

< 職員一覧 >

職名	氏名	職名	氏名
校長	井口智恵子	教諭	坂本 望
教頭	深代 恵子	養護教諭	鈴木 梓
教諭	山田 哲也	主幹事務長代理	星野 恵美
教諭	千明 春香	非常勤講師	高橋千賀子
教諭	下田 隆広	〃	細矢 克明
教諭	鈴木 朋華	〃	大岩 哲夫